蒼—そうきゅう—穹

発行者
上士幌高等学校
新聞局
編集長
木村　彩夏
第262号
令和2年4月28日

お断り　今回の記事は２年生の時に取り組んでいた内容で、編集が遅れました。それでも２月の終わりには発行できるはずが、今度は突然休校になってしまったため、どうにもなりませんでした。しかし取材に協力してくれた皆さんにも申し訳ないので、あえて発行することにしました。これからは編集の早さを心がけます。

俺たちの自主研修

10.月28日（月）に見学旅行2日目に3～5人の班で京都にあるなごみから京都市内、大阪を観光したが、最後には遅刻するなどのハプニングもあった。

湯葉ご飯

その後は清水寺近くの予約していた湯葉屋さんで昼食を取った。

以前に札幌の駅地下で販売されていた湯葉を食べたことがあり、その時のおいしさ以上の物を期待していた。メインの湯葉ご飯はもちろんのこと、豆腐が想像以上においしく、感動した。市販で売っている豆腐よりも柔らかく、豆の味を最大限味わうことができた。

（木村　彩夏）

わさびはいらなかったな～

私は伏見稲荷大社を一番楽しみにしていた。実際に目にした大社は本やネットに書いていた通り鳥居がいっぱいあり、その空間に圧倒された。長く続く鳥居道を歩いているだけで別の世界にいるみたいに思えた。人が多くゆったりと見るということはできず少し悲しかったが、あの場所に行けたこと自体が素直に嬉しかった。

幻の伏見稲荷

自分達の自主研修は、予定通りには出来なかった。午前中の清水寺・護国神社までは良かったが、午後は疲労感がピークに達していて、イオンで昼食を食べてるとY君が「本当に伏見稲荷大社に行くの？」と言い出し、K君が「いや、せっかく決めたんだから行こうよ」と小さい言い争いが始まってしまった。

結局、近い神社を探し回ったが、全然見つからず諦めて戻ると、すぐ隣に「稲荷大社」という看板を見つけ「おい、あるじゃねぇか！」「地図で調べたらもっと遠かったはずだよ」「さっきまでの言い争いなんだったんだよｗ」と笑いながら神社に向かった。

だが、そこは行きたかった「伏見稲荷」ではなく、たくさん鳥居があるわけではなかった。

「何か違くね？」「鳥居が無いよ？」「何で？」と色々考えたが、もう疲れていたので「もういいや、見たかったものは無かったけど『稲荷大社』って書いてるんだし一緒一緒」と妥協した。

小さい事でものすごく疲れたが研修自体は楽しかった。

（加藤　駿）

加藤君が行けなかった本物の伏見稲荷大社です。

抹茶ソフト＆京ラーメン

自主研修では、計画した通りに行けるのかなど不安を抱えながらも行き先を回ることができた。

印象に残っている場所は金閣寺だ。当日は晴れていたので水に反射して綺麗に映る姿も見られた。

また、ここでのお昼には甘味処で金箔がのった抹茶ソフトクリームとみたらし団子を購入したが、ソフトは溶けるし団子は温かいしで慌てながら食べた。ソフトはコーンがサクサクで、抹茶の甘さが自分的には丁度良く、凄く満足した。今度、機会があればまた行きたいと思った。

この後はバスで京都駅に着き、夜ご飯をどこで食べるのかで駅の周りをうろちょろし、甘味処とラーメンの「京阿月」という店に入った（「きょうあづき」と読むことは帰って来てから知った）。

個人的にはぜんざいも食べてみたかったが、時間もなかったので醤油ラーメンを食べることにした。

京都のラーメンは一般的に麺は中くらいストレートで、かなりこってりしたインパクトの強いスープが特徴らしいが、この店は麺は細く、つゆは透き通っていて、友達は少し味が薄いと言っていたが、私は丁度よく思っていた。

今回の自主研修は私が我儘を言って振り回すこともあったが、小・中の頃よりも楽しく、いい思い出になったのでまたクラス皆で行けたらいいと思った。

（早坂　柚香）

美味しかった♡♡

見学旅行アンケートより

・とても反省してます。いろんな意味で。　A杵淵
・予定と大きくずれてたが、楽しかったのでよし。　A黒木
・三十三間堂の仏像がすごかった。　A佐藤
・一番大変だった。色々な意味で。　A柴崎
・行きたいと思ったところに全部行けてよかった。　A野々村
・京都の色々な場所がいけて楽しかった。　B小野
・外国人の人とたくさんの写真がとれたので良かった。　B関
・行きたい所に行けたので楽しかったです。金閣寺を見れて良かった　B相原
・京都の町並み、大阪の美味しい食べ物を満きつできてよかった。　B佐々木
・帰る時間がかなりすぎたけど大阪すごーくまんきつできたからよかった。　B野崎
・石田くんと七海くんと小さな大冒険をしました。　上神田先生

小屋パイロット

今年の活躍に期待

今年の1月10日、本校の熱気球部顧問である小屋英理香先生が、熱気球のパイロット資格を取得した。

今まではパイロット資格を持つ顧問がいなかったので、資格を持つ町議の中村さんに指導員をお願いしていたが、「それでは駄目だ」と思った小屋先生が「上士幌町熱気球人材育成事業」に応募して講習を受講し、今回の合格となった。

「前はそこまで思っていなかったが、去年の夏に中村さんの操縦で乗った際に『気球のことをなにも知らなかったんだ』と気づき、どうにかしようと思って動いた」と話してくれた。

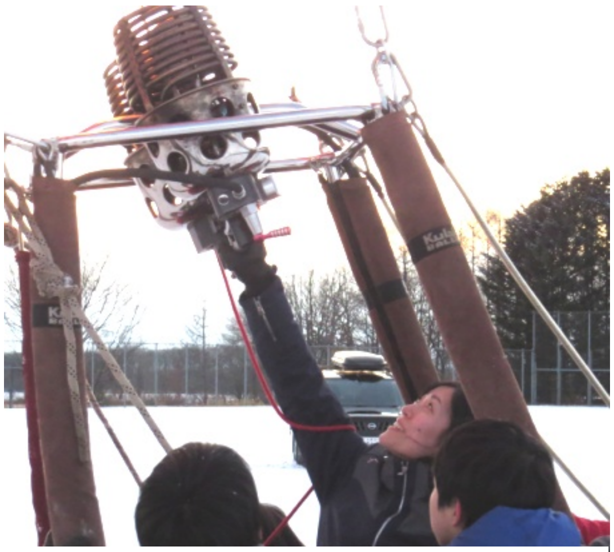
先生がいつから本格的に動きだしたのかというと「去年の秋ぐらい、11月26日にはバーナーを握っていた」とのことで、寒い時期からの動きだったようだ。

試験は実技の他に筆記があるそうで、どういった問題が出題されるのかというと「天気の事や、プロパンガスの扱い、気球の基本的な大きさ、なぜ飛ぶのか、事故にあった時の対処法などが出された」そうだ。また実技では「着陸」を失敗してバウンドしてしまったので2回目は緊張したが何とかうまくいったそうだ。

最後に、資格を取った顧問として、これからは「今までよりいっぱい気球を飛ばして上士幌高校を町にPRしていきたい」と先生らしい笑顔で話してくれた。

今年からの上高熱気球部の活動をを応援してほしい。

（木村　彩夏）



重いバーナーを何とか持ち上げる小屋先生

カナダ人と喋った

日本との違いを学ぶ

冬休み明けに「ユネスコ研究大会参加生徒募集」という連絡があったのを覚えているだろうか。「自分には関係ない」と思った人がほとんどだと思うが（私も）、実は1Aから岡部亜弥さん・帰山千聖さん・川原有紗さん・西部夢菜さんの４名が参加していたのだ。

1月25日（土）に札幌で行われたその大会、午前の部はまずアフガニスタンで小学校教育の環境を整える事業の話をスライドを見ながら聞いた後、韓国、フランス、ドイツ、ロシア、カナダ、オーストラリアから来ている外国人から国の学校事情と学びの場が将来の生活とどう繋がっているのかを聞いたそうだ。

午後の部では、４人とも第1分科会に参加し、外国人講師ごとにグループになって自由に意見交換する時間を過ごした。

アリョーナさん（ロシア）と話した帰山さんは「ロシアの環境や文化、食生活について話を聞き、自分も質問した」そうだ。

川原さんと岡部さん、西部さんはダニエルさん（カナダ）の班になった。３人とも「本人の自己紹介や日本と比べて、その国の地域や文化について話した」とのことだ。

そして閉会式では「初めて参加した学校さんからいつもあいさつしていただいている」とのことで岡部さんと帰山さんが全体の前で感想を話した。

「緊張したけど、皆とても優しかったので上手く発表できた」そうだ。

最後に、どうして参加しようと思ったのか、また行ってみての感想を聞いてみた。

〇岡部さん

「英語が好きなので挑戦しようと思い参加した。思ってたより楽しくて、緊張とかもしなかったし、異文化に興味を持った」

〇帰山さん

「将来、海外に行きたいので、国際交流がしたかった。交流によって、たくさんのことを知れて良かった。また同じような事があれば、積極的に参加したい」

〇川原さん

「ユネスコスクールがあるのを知って、部活動の２人が行きたいというのがあったから、ついて行った。外国人と交流する機会がなかったから、色々と学ぶ事が多かった」

〇西部さん

「異文化について知りたかったので参加した。自分が過ごしている環境との違いに驚くことが多かった。また機会があったら行きたい」

来年は是非、皆さんもこのような大会に積極的に参加してみはどうだろうか。

（加藤　駿）

ダニエルさんと談笑する川原さん

２０１９年度
青少年国際交流の集い
第47回
北海道高等学校
ユネスコ研究大会

４人とも大会お疲れ様でした。

先生の休日④

みんな大好き橋浦先生

第3回目の「先生の休日」は1年B組の副担であり、数学の授業でお世話になっている橋浦秀明(ひであき)先生だ。

先生の休日は、家でのんびりごろごろしながらテレビみたり、ビール(サントリー「金麦」)で喉を潤わせてからハイボール(ウィスキーの炭酸割り)を飲んでいるとのことだ。

また「やよいの湯」によく行っているそうだ。一番好きなのはサウナと水風呂で、5回ぐらい繰り返して入ってるらしい。苦手な温泉もあるみたいで「電気温泉かな。ビリビリが怖い」と恐怖心を持っているらしい。

橋浦先生は趣味が温泉旅行以外ないので増やしたいと考えたらしいが「お金がないし、なんか面倒くさい」とどこか思ってるようで「一度、気球に乗ってみたかったが早起きするのが苦手」なので諦めたみたいだ。

また先生は帯広で「うみ」ちゃん、札幌の自宅で「紅丸」くんという二匹の柴犬を飼っていて、休みの日は「うみ」ちゃんと散歩に行っていたが、仲を深めるため今は奥さんの方にいるので最近は寂しい土日を過ごしているようだ。

取材中、橋浦先生が二匹のじゃれあっている姿をわざわざ写真で見せてくれて、紹介している間、嬉しそうな顔をしていて本当に犬が好きなんだなあと思った。

今回の取材では橋浦先生がお酒好きなのと、犬好きだということがわかった。この機会に橋浦先生に話しかけに行ってはどうだろうか。

次回は植松先生の休日を調査する。

（早坂　柚香）